

● Photo sketch ●



6/8 若者へ伝えたい 陶磁器の魅力

名古屋芸術大学の学生9人が、大東亜窯業(肥田町)と丸義(泉町)を見学しました。これは、学生が陶磁器産業について理解を深めるきっかけを作り、将来の職業選択肢の1つとしてもらうことを目的に、市が地元の企業や事業所と協力し実施する事業です。

参加した学生からは、「おもしろい。絵柄のデザインだけではなく、成形についても興味があった」など、窯業界にとってうれしい感想が多く聞かれました。



6/11 搾りたてのお味はいかが？

陶史の森で毎年恒例の「ミツバチ教室」が開催され、県内外から親子連れ約120人が参加しました。

参加した親子らは、専門家からミツバチの生態について説明を受けた後、同施設で飼育しているミツバチの巣箱から巣枠を取り出す様子を観察。無数の六角形にぎっしりと蜂蜜の詰まった巣枠を遠心分離機に掛け、搾りたての自然の恵みを堪能しました。



6/15 自然の力でこんなにきれい になるんだね

土岐津小学校の4年生児童109人が環境学習の一環として市浄化センターを見学しました。

児童らは、微生物などの働きにより汚れた水がきれいになる仕組みや、一日に処理する汚水の量などについて説明を受けた後、実際の処理施設に入り、さまざまな工程を経て水が浄化されていく様子を観察しました。職員の説明に真剣に耳を傾けながら、一生懸命にメモを取る姿が印象的でした。



6/17 幻想的な光の夜

鶴里公民館とその周辺で「ホタルまつり」が開催され、地元の有志による猪鍋のサービスや屋台、テノール歌手による伸びやかな歌声のコンサートも行われました。

コンサートでは、会場の運営などボランティアで参加した濃南中の生徒との合唱や、参加者全員で「ふるさと」を合唱するなど、会場は一体感に包まれていました。その後は会場周辺にある「ホタルの小径」へ移動し、幻想的なホタル観賞を楽しみました。

6/4 いつだって遊びは楽しい

今年で24回目となる三世代ふれあい広場が、土岐津公民館で開催されました。土岐津中学校の生徒55人もボランティアとして参加し、会場の運営などを手伝いました。

会場では、竹馬、お手玉、あやとりなど、昔ながらの遊びや体験が充実。昔を懐かしむお父さんや、知らなかった遊びに触れ目を輝かせる子どもたちなど、世代を超えた触れ合いに、たくさんの笑顔があふれていました。



5/23 私たちも地域の一員

地域との関わりを深める目的で行われる総合的な学習の時間を利用して、泉西小3年生の児童45人がランプシェードを作りました。

児童らは粘土を筒状に丸め、くり抜いたり飾り付けたり、自分の個性を存分に発揮していました。作り終わると、「思うように作れなかったけど楽しかった。焼き上がりも楽しみ」と話してくれました。完成したランプシェードは、定林寺の「九方九千日祭」や土岐川沿いで行われる「あかりのタベ」にて展示されるとのことです。



6/8 これであなたも片付け上手

市教育委員会が主催する「職場で学ぶ家庭教育理解講座」がイワト(泉町)で開催され、社員約40人が参加しました。

「発見！あなただけのお片づけ」と題し、ライフオーガナイザー(思考と空間の整理のプロ)の講師が、脳のタイプ別による片付け方法などについて講演しました。参加者らは、自分に合った収納術に興味深そうに耳を傾け、「今後家庭や職場で実践したい」と感想を述べていました。